

第6回 立野小学校 授業研究会

講師

学校法人希望が丘学園	学園統括顧問	元主任視学官	日置 光久 先生
福島大学教職大学院	准教授	前教科調査官	鳴川 哲也 先生
横浜市立小机小学校	校長		鈴木 康史 先生

授業者 3年1組 水野 花恋

理科 「ちぎって、丸めて、重ねて！重さは変わる？変わらない？～物と重さ～」



カン、画用紙、角砂糖、ペットボトル、ブロックは形を変えたら重さは変わるのか調べました。もとの重さと形を変えた後の重さを比べ、複数の結果から考えることで、「物」は形を変えても重さは変わらないという結論まで出すことができるような授業をしました。

子どもたちは、複数の物を調べるよさについて、「前回調べた粘土の結果も合わせると6つの物を調べたから、物は形を変えても重さは変わらないと言える。」「結果がずれた時は実験方法を見直して、再実験するから、皆が納得することができる。」と考えていました。

講師の先生からは、「科学的に考えることのよさを実感していた。」「結果からどこまで言い切っているのか話し合っていた。」「一般化するために可逆性のある教材選びも大切。」とご講評いただきました。

授業者 6年2組 酒井 優里亜

理科 「かぶせただけでなぜ消える？～燃焼の仕組み～」



ろうそくの火が消えたとき、ペットボトルの中の酸素と二酸化炭素の割合はそれぞれどれくらい変化しているのか、教材用デジタル気体測定器を使って調べました。専用アプリで測定値を共有し、結果を根拠により妥当な考察をして問題解決することができるような授業をしました。

子どもたちは、結果を大事にして考察することのよさについて、「数値は絶対的。確定しているものがあるから、それをもとに考察できる。」「根拠があるから、考察が深まる。」と考えていました。

講師の先生方からは、「実験の意味付けが明確になっていた。」「結果を大事にして考察するよさを子どもたちが分かっていた。方法についてふり返ることができていた。」とご講評いただきました。